



しもべ
僕の共同体

暗唱
聖句

「また、約束を下されたのは忠実なかたであるから、わたしたちの告白する望みを、動くことなくしっかりと持ち続け、愛と善行とを励むように互に努め……ようではないか」

(ヘブル 10:23～25、口語訳)

「約束して下さったのは真実な方なので、公に言い表した希望を揺るがぬようしっかりと保ちましょう。互いに愛と善行に励むように心がけ……ましょう」

(ヘブライ 10:23～25、新共同訳)

今週の
聖句

Ⅱコリント 2:14～16、出エジプト記 32:1～14、Iペトロ 2:12、
フィリピ 2:15、エフェソ 2:19、ヘブライ 10:23～25

安息日
午後
9/21

今週のテーマ

キリスト教の使命を果たそうとするときに、私たちは信者の組織的共同体としての教会の潜在能力を過小評価すべきではありません。私たちが不正や貧困に対処しようとするときに直面しうる問題については、すでに注目しました。しかし信仰の共同体における仲間の信者と一緒に働くことで、私たちは周囲の人たちにとって祝福となりえます。

ありがちなのは、私たちが教会として集まるたびに、教会そのものを継続させることに気を取られて、教会が存在する理由を忘れてしまうことです。教会が存在するのは、神がそれを置かれた世界のために奉仕することです。教会組織として、私たちは至る所に存在する苦しみや悪を無視してはなりません。もしキリストがそれを無視なさらなかったのであれば、私たちもそうしてはなりません。私たちは福音を説くようにという命令に忠実でなければなりません、その宣教には、虐げられた人、飢えた人、裸の人、無力な人たちを助ける働きも伴うのです。

教会共同体、教会組織として、私たちはキリストの体です (Iコリ 12:12～20 参照)。従って、私たちは共同体として、イエスが歩まれたように歩み、イエスが手を差し伸べられたように手を差し伸べ、現代世界にあって、イエスの手、足、声、心として奉仕すべきです。

私たちは使徒言行録の最初のほうの章で、初期のクリスチャン信者たちがいかに通常とは異なる共同体を築き、彼らの中にいた貧しい人たちを世話し、ともに共同体の外にいる人たちに手を差し伸べ、必要な場所では支援を申し出、神が教会共同体の中でなさっておられることに加わるように招いたのかを見ました。

塩と光に関するイエスの説明に加えて、パウロは、この世における教会の活動を描くために多くの比喻を用いています。数ある中でも、彼は神の民として生きる人たちを、いけにえ（ロマ12:1参照）、キリストの体（Iコリ12:12～20参照）、使者（IIコリ5:18～20参照）、香り（IIコリ2:14～16参照）などと表現しています。これらの象徴はどれも、神の国の代表者または使者としての現在の役割、大争闘によって荒廃した世界の中における役割について述べているのです。

問1 上記の「代表者」としての表現を、一つひとつ見直してください。あなたが地域社会において神と神の方法を代表したいと思うやり方を最もよくあらわしているのは、どの表現ですか。

これらの象徴はいずれも、（神に受け入れていただく手段としてではなく、キリストの犠牲を通して神によってすでに受け入れられた民として、）それぞれに関連した働き（作用）を持っています。この民は、傷つき、死にかけている世界の中で神の使者になることで神の愛と恵みに応答したのです。

しかし私たちは、彼らをもっと深いレベルで考えることもできます。なぜなら、神の愛と恵みは、神の国そのものだからです。私たちがそのように行動し、愛と恵みを他者に反映するなら、私たちは今でも永遠の国を実演し、それに参加しているのです。

国際法において、一国の大使館は、たとえ物理的に外国にあり、たぶん母国から遠く離れていようと、それが代表する国の一部とみなされます。同様に、神の国の方法を実行することは、永遠の現実を今ここで垣間見させ、従って、悪の最終的敗北を指し示しており、その前触れなのです。そして、私たちは（キリストの大使、キリストの使者として）そうすることによって、私たち自身の人生において、教会において、私たちが仕えようとする人たちの人生において、神の愛と正義の現実を体験できるのです。

◆ IIコリント2:16を読んでください。二つの香りの違いは何ですか。

聖書の預言の中で確認される残りの民の標準的な定義は、黙示録12:17にあります——「神の掟を守り、イエスの証しを守り続ける聖なる者たち」（黙14:12も参照）。聖書物語の中で、これらの特徴が地球史末期の神の民を区別しているのですが、私たちは聖書物語の中に、残りの民の行動、とりわけ他者に対して仕える実例を見ることができます。

問2 出エジプト記32:1～14を読んでください。この物語におけるモーセと黙示録12:17に描かれている残りの者たちの間には、どんな類似点がありますか。

イスラエルの人々に激怒された神は、彼らを滅ぼして、アブラハムに与えた（彼の子孫を大いなる民にするという）約束をモーセとその家族に移すと脅しておられました（出32:10参照）。しかし、モーセはそれを望みませんでした。その代わりに、彼は大胆にも神と論じ合い、主がそのような脅しをなさることは印象を悪くすると、さりげなく述べます（出32:11～13）。しかし、モーセはさらに踏み込んで、神に対して自分の言い分を通すために身を危険にさらすのです。

モーセは、荒れ野でこの民を導くために努力してきました。彼らは、モーセが自由へと導き出して間もない頃から不満を漏らし、言い争ってきたのです。それにもかかわらず、モーセは神に言います。もしあなたが彼らを救うことができなくなるのなら、「このわたしをあなたが書き記された書の中から消し去ってください」（出32:32）と。モーセは一緒に旅をしてきた人々を救うために、永遠の命を諦めます、と申し出たのです。

受けるに値しない者たちのために自己犠牲的な執り成しをするという、なんと強烈な実例でしょう。救済計画全体のなんと的確な象徴でもあることでしょう。

「モーセは、これまで神の導きのもとにイスラエル人のために多くのことを行ってきた。モーセは、彼らのために深い関心と愛をいだけて嘆願しているうちに、臆する気持ちがなくなった。主は、彼の願いに耳を傾け、彼の無私の祈りをお聞きになった。彼は、そのしもべを試みられたのである。神は彼の忠実さと彼があやまちに陥り、恩を忘れた人々を愛するかどうかを試みられた。そして、モーセは、その試練に耐えたのである。モーセのイスラエルに対する関心は、利己的動機から出たものではなかった。神の選民が榮えることは、彼の個人的榮譽や大国民の父となる特権よりも、彼にとって大切なことであった。神は、モーセの忠実さ、心の素朴さ、誠実さをお喜びになって、彼を忠実な牧羊者として召して、イスラエル人を約束の国に導き入れるという大任命を彼にお与えになった」（『希望への光』163ページ、『人類のあけぼの』上巻375ページ）。

時として教会の議論は、社会福祉の働きを重視するか、福音の働きを重視するか——慈善かあかしか、正義か伝道か——を選ぶ見かけ上の必要で行き詰まってしまうように見えます。しかし、私たちがそれぞれの概念をよく理解し、イエスの奉仕に注意を払うなら、その違いは解消し、福音を宣べ伝えることと他者を助けるために働くことが密接につながっているとわかるのです。

エレン・ホワイトは、最もよく知られた彼女の言葉の一つの中で、このことを次のように説明しています——「人の心を動かすには、キリストの方法だけが真の成功をもたらす。人間として歩まれた間、救い主はその人たちの利益を図られ、同情を示し、その必要を満たして信頼をお受けになった。そして『わたしについて来なさい』とご命令になった。……貧しい者を助け、病める者を看護し、悲しむ者、親しい人を失った者を慰め、無知な者に教え、経験がない者には助言を与えなければならない。わたしたちは泣く者と共に泣き、喜ぶ者と共に喜ぶべきである」(『ミニストリー・オブ・ヒーリング 2005』128、129 ページ)。

すでに触れたように、王国のこれら二つの行動(正義と伝道)は、イエスの働きにおいてだけでなく、彼が弟子たちに与えられた最初の命令においても密接に絡み合っています——「行って、『天の国は近づいた』と宣べ伝えなさい。病人をいやし、死者を生き返らせ、重い皮膚病を患っている人を清くし、悪霊を追い払いなさい。ただで受けたのだから、ただで与えなさい」(マタ 10:7、8)。要するに、メッセージを人々に届ける最善の方法は、人々の必要を満たすことなのです。

問3 Iペトロ 2:12 とフィリピ 2:15 を読んでください。神の民によってなされる善行による証の力について、ペトロとパウロは何と言っていますか。

人々への熱意なくして、伝道は意味を成しません。Iヨハネ 3:16～18 やヤコブ 2:16 のような聖句は、福音を実践せずにそれを宣べ伝えることの矛盾を強調しています。最善の形の伝道(希望の良い知らせ、救い、悔い改め、変化、すべての人を受け入れる神の愛をもたらすこと)は、正義のあらわれなのです。

伝道も、正義を望む気持ちも、失われ、打ちひしがれ、傷ついた人たちに対する神の愛を自覚することから生じます。そしてその愛は、私たちの生活の中における神の影響のもとで、心の中に育ちます。私たちはどちらかの行動を選ぶではありません。そうではなく、私たちは神に協力して、人々のために働き、彼らの真の必要に応え、神が私たちに託してくださったあらゆる資源を用いるのです。

◆ どうしたら私たちが他者のために善行を行い、同時に救いの良い知らせを宣べ伝えることができますか。

神はヨブ記の冒頭で、御自分の方法と、墮落した人類に対する御自分の扱ひ方の正しさの証拠として、ヨブと彼の忠実さを指摘しておられます（ヨブ1:8参照）。神が御自分の評判を、この地上に生きる御自分の民の生き方におゆだねになるとするのは、注目に値します。しかしパウロは、神が御自分の「聖なる者たち」に置いておられるこのような信頼を、教会という共同体を含めるところまで敷衍しています——「いろいろの働きをする神の知恵は、今や教会によって、天上の支配や権威に知らされるようになったのです」（エフェ3:10）。

問4 エフェソ2:19を読んでください。教会共同体を神の「家族」と呼ぶ考え方には、何が含まれていると思いますか。

どんな共同体や組織でも、構成員への接し方は、そのグループの基礎的価値観を表します。神の家族、キリストの体、“霊”の共同体として、教会は、実現し、果たす最も高尚な召しを受けています——「神は無秩序の神ではなく、平和の神だからです。聖なる者たちのすべての教会でそうであるように」（Iコリ14:33）。

正義、恵み、愛という価値観が——神の正義、恵み、愛によって実証されているように——教会内のすべてに影響を与えるべきです。地域の教会から世界教会まで、指導者たちの指導の仕方、決定の仕方、教会共同体内の「この最も小さい者」の世話において、これらの原則が彼らの指針となるべきです。その原則はまた、時として教会員の中で生じる争いを、解決方法においても、私たちの指針となるべきです。もし私たちが、私たちの中にいる人々を公平かつ敬意をもって接することができないなら、どうしてほかの人たちに対してそうできるのでしょうか。

教会組織が人を雇っているところでは、その組織は寛大な雇用者であるべきで、すべてに先立って人を尊重し、メンバーを不公平に扱うことに反対すべきです。教会は、弱い人たちを守るためにできることを全教会員が行う安全な場所であるべきです。そして私たちが初代教会の中に見るように、教会共同体のメンバーは、苦しんだり、困ったりしている教会の「家族」をとりわけ支援する心構えでいなければなりません。

イエスはこのことを命令として与え、それは信仰の共同体を変えるだけでなく、彼らの信仰の現実を（見ている人たちに）実際に示すことにもなると、イエスは言われました——「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる」（ヨハ13:34、35）。

たとえ最善の動機と意図を持ち、私たちが神と善良さの側にいると信じていても、主のための働きは、難しいこともあれば、私たちを落胆させることもあります。この世の悲しみと苦しみは現実です。私たちが教会共同体を必要とする理由の一つがそれです。イエスは御自分の弟子とともに、そのような種類の支援的共同体のモデルを作られました。イエスはめったに人を独りで遣わされませんでした。そのようなことが起きた時でさえ、彼は弟子たちとすぐに合流して話を共有し、彼らにエネルギーと勇気を再注入なさいました。

問5 ヘブライ 10：23～25 を読んでください。私たちが互いに「愛と善行」を励まし合うことのできる方法には、どのようなものがありますか。

ほとんどいかなる任務、運動、プロジェクトにおいても、人間の集団が協力して働いたほうが、個々に働くよりも多くのことを達成できます。この事実は、キリストの体としての教会のイメージを改めて私たちに思い出させます（ロマ 12：3～6）。その体において、私たちはみな、異なるけれど補完的な役割を持っているのです。私たち1人ひとりが、互いに影響を及ぼし合うような形で最善を尽くすとき、私たちは、自分の人生と働きが永遠のために良い変化をもたらすのだ、と信仰によって信じることができます。

正しいことをしようとするとき、結果は重要ですが——結果は人とその人生に関係しています——、私たちは時として、その結果がどうであれ、神を信頼しなければなりません。時として、貧困を和らげ、弱い人たちを守り、虐げられた人を解放し、黙っている人の口添えをするために働いても、ほとんど進展が見られないでしょう。しかし私たちには、はるかに大きな目的、必ず勝利する目的のために働いているという希望があります——「たゆまず善を行いましょう。飽きずに励んでいれば、時が来て、実を刈り取ることとなります。ですから、今、時のある間に、すべての人に対して、特に信仰によって家族になった人々に対して、善を行いましょう」（ガラ 6：9、10、さらにヘブ 13：16も参照）。

それゆえ私たちは、互いに励まし（文字どおりの意味は、勇気を吹き込み）合いなさい、と命じられているのです。忠実に生きることは、喜ばしくもあり、難しくもあります。私たちの正義の神と私たちの正義の共同体は、私たちの最大の支えであり、また私たちが人々を招き入れるものなのです。

◆ 人々の苦しみを和らげるために定期的に働いている人を、いかに励ますことができますか。

参考資料として、『患難から栄光へ』第8章「ユダヤ議会での証言」を読んでください。

「弟子たちがした仕事を、わたしたちもしなければならぬ。クリスチャンは、だれでもみな伝道者でなければならぬ。助けを必要としている人に同情と慈しみをもって奉仕し、無我の熱心さをもって、苦しむ人々の災いを軽くするように努力しなければならぬのである。……

わたしたちは飢えた者に食を与え、裸の者に着せ、苦しみ悩む者を慰めなければならぬ。気落ちした者に仕え、望みなき者に希望を起こさせなければならぬ。無我の奉仕に表されるキリストの愛は、悪人を改めさせるのに剣や法廷よりも力がある。……しかられて頑固になった心も、キリストの愛には溶けることが多い」(『ミニストリー・オブ・ヒーリング 2005』86、88 ページ)。

「奴隷制度、カースト制度、不当な人種差別、貧しい人たちを抑圧すること、不幸な人たちを無視すること……、ここに挙げられたものはみな、キリスト教精神に反する脅威、人類の幸福にとって深刻な脅威であり、キリストの教会が覆すようにと主から任命された悪なのです」(エレン・G・ホワイトの葬儀において、彼女の働きについて語った世界総会総理A・G・ダニエルズ の言葉『エレン・G・ホワイト略伝』473 ページ、英文)。

話し合いのための質問

- ① あなたは、所属する教会共同体によって励まされたり、支えられたりした時を思い出すことができますか。その体験から学ぶことで、いかにあなたは同様の励ましをほかの人にも与えることができますか。
- ② 現在、世界中のセブンスデー・アドベンチスト教会が支援している正義と貧困のためのプロジェクトや戦略で、あなたはどのようなものを知っていますか。教会の働きのこのような側面に対して、あなたはどんな貢献ができますか。

まとめ

確かに、私たちはクリスチャンとして、他者の必要、とりわけ傷つき、苦しみ、虐げられている人たちの必要に応えるように召されています。そして私たちは、他者に仕えることを重視する共同体として、この領域において個人的な責任を負っていますが、私たちは教会家族として、はるかに効果的な働きをともにすることができるのです。